

2012 年 11 月～2013 年 1 月の桜島噴出物構成粒子の特徴

2012 年 11 月～13 年 1 月の桜島昭和火口噴出物の構成粒子の特徴はほぼ一定である。

2012 年 11 月～13 年 1 月に桜島昭和火口から噴出した火山灰の構成粒子比を観察した。2012 年 11 月 14 日～2013 年 1 月 10 日の噴出物は、鹿児島地方気象台によって、1 月 28 日、31 日噴出物は産総研によって採取されたものである。

これらの火山灰試料の構成粒子比はほぼ一定であり、顕著な時間変化は見られない(図 1)。全粒子に占めるガラス質粒子の割合は 60%前後である。緻密なガラス質岩片が全体の 50%程度を占める一方、発泡したガラス質岩片の含有量はいずれの試料も 10%以下である。緻密なガラス質岩片の大部分は濃色（黒色～濃褐色）である。より結晶度が低い淡色ガラス質岩片の含有量はいずれの試料でも 10%以下である。また発泡したガラス質岩片はスコリア質粒子（黒色～濃褐色のガラスからなる）からなり、淡色ガラスからなる軽石質粒子はごく少ない。

このような特徴は、少なくとも 2011 年 11 月以降継続している。

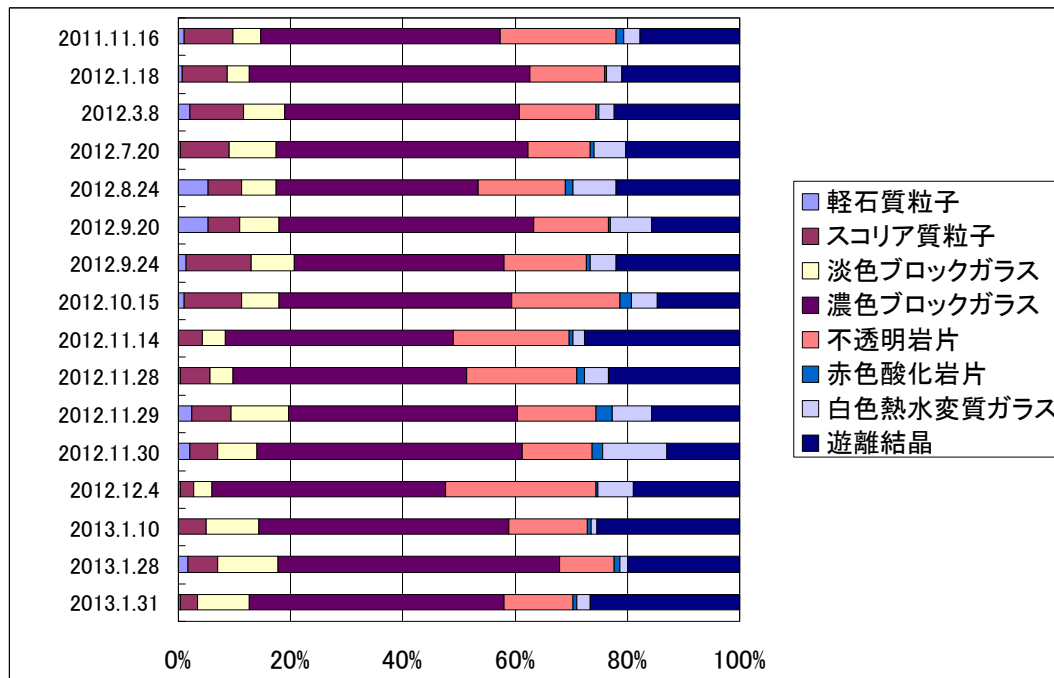


図 1. 2011 年 11 月 16 日～2013 年 1 月 31 日の噴出物構成粒子比. 粒径 500～250 μm の 300 粒子を計測. ただし、2013 年 1 月 31 日試料のみ、全体に細粒のため粒径 250～150 μm の粒子を用いた。

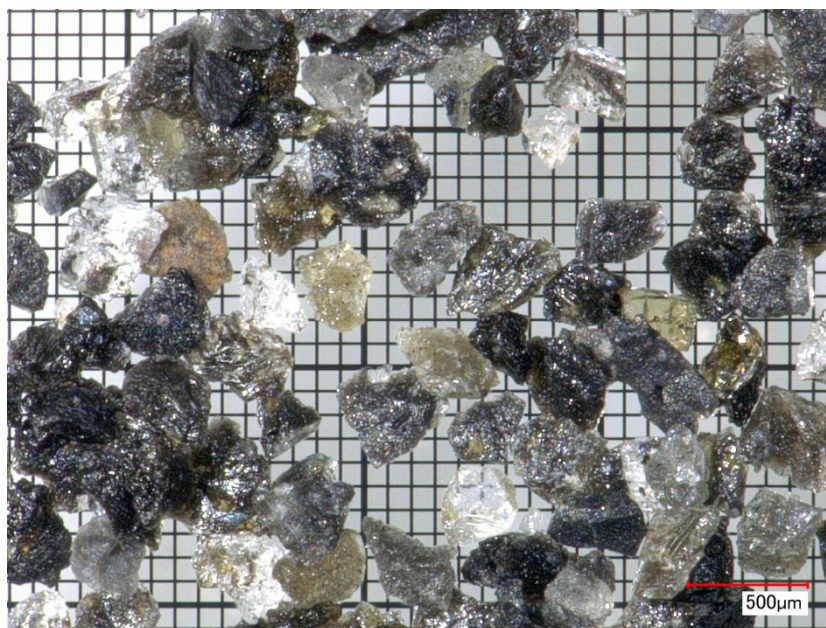


図 2 2013 年 1 月 28 日（夜～29 日朝）に垂水港付近で採取された火山灰粒子．2013 年 1 月 31 日に桜島北側山腹で採取された火山灰粒子（1 マスは $100\ \mu\text{m}$ ）．期間中 28 日 18 時 51 分および 19 時 10 分に噴火が記録されている．

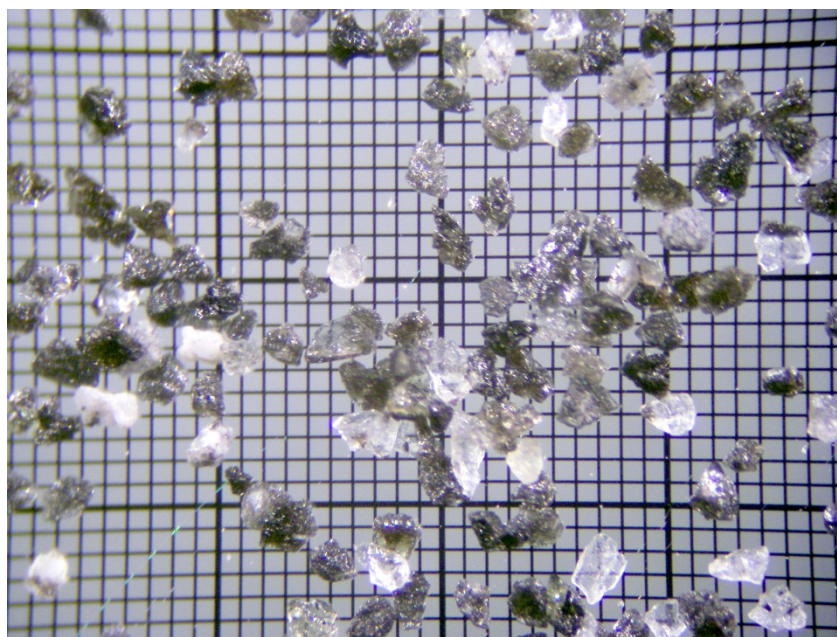


図 3 2013 年 1 月 31 日に桜島北側山腹で採取された火山灰粒子（1 マスは $100\ \mu\text{m}$ ）．ほぼ連続した灰噴火の噴出物．